

世界中で愛された政治家

南アフリカ共和国のノーベル平和賞受賞者ネルソン・マンデラ 元大統領の追悼式が、去る 12 月 10 日ヨハネスブルグのスタジアムで行われました。時折強い雨が降るなか、市民5万人以上が詰めかけ、100 近い国と地域的首脳が集まり、日本からは皇太子が出席しました。融和の精神を貫いたマンデラ氏を悼む場で、かつてあわや核戦争の瀬戸際までいった宿敵米国のオバマ大統領とキューバのカストロ議長とが握手する写真が話題になりました。

南アフリカはオランダ、イギリスの植民地支配後に独立したものの、9%の白人層が 80%の非白人を極度に差別するアパルトヘイト(人種隔離)政策を進め、1960 年代から非白人の反対闘争が激しくなりました。マンデラ弁護士も 1962 年に逮捕され 27 年半の獄中生活を送りました。しかし対話路線デクラール大統領がマンデラと会談をしたのを契機に翌 1990 年に釈放され、全ての人種が参加した国会選挙で圧倒的な支持を受け、1994 年 大統領に就任、初の黒人政権をもたらしたのです。

私だったら、27 年余にわたる長い牢獄生活の中で、敵に対する怒りと憎しみを激しく募らせたに違いありません。ところが、「彼は黒人が人間であることを示すために闘ったが、牢獄から憎しみではなく、和解の思いを持って出て来た。そして敵を味方に変えた。」とされています。

白人を排除せず、その統治力を重んじて、新しい国造りに活用しました。意見の異なる人と丁寧に向き合い、他者に寄り添う姿勢が多くの人を惹きつけたとされています。日本に招かれた時、京都の石庭で有名な竜安寺案内されました。彼は式台で靴を脱ぎ、先の人靴をみなそろえてから上がりました。その姿に彼の謙虚さと誠実さを見る思いがしたと、通訳者が感銘して語ったそうです。

囚人を虫けら扱いする監獄の看守たちが、マンデラの人柄に触れるうちに尊敬の念を抱き、彼を大切に守るようになったと、TV が報じていました。偉いですね！ まさに人種融和のオーラを発する人柄だったのです。彼は大統領を 1 期5年で辞めました。どんなに英雄視されても、己の限度をわきまえ、権力に執着しなかったのです。1990 年に彼を釈放した白人政権の元大統領デクラークは「彼は特別な人間 (special) だった」と語っています。でも世界が求めている政治家は、まさにマンデラのような人物ではないでしょうか。

先ず私から始まりますように

「神は愛である」と聖書は宣言します。愛の神さまは私たちに救うために救い主キリストを送ってくださいました。この愛の救い主の 到来を祝う時がクリスマスです。キリストは当時の世界ローマ帝国

の片隅、植民地ユダヤの小さな田舎町の馬小屋で誕生しました。

どうして世界の片隅で救い主が生まれたのでしょうか。それは、私たちの間では、小さな者・貧しい者が卑しめられているからです。小さな者・貧しい者が大事にされ尊ばれる時に、私たち誰にとっても暮らしやすい平和な世界が来ると、神さまは私たちに語りかけておられるからに他なりません。

マザーテレサに或る人が質問しました。「なぜ神さまはこの世に、こんな貧しさがあることをお許しになったのでしょうか」「このような貧しさは、神さまがお作りになったものではありません。私たち人間が作り出したのです。私たちが分け合わないからです。私たちの責任です。多くの人は、一切れのパンにではなく、愛とほほ笑みに飢えています」

聖フランシスの平和の祈り

私をあなたの平和の道具としてお使いください
憎しみのあるところに愛を いさかいのあるところに赦しを
分裂のあるところに一致を 疑惑のあるところに信仰を
誤っているところに真理を 絶望のあるところに希望を
闇に光を 悲しみのあるところに喜びをもたらす者としてください
慰められるよりは慰めることを 理解されることよりも理解することを
愛されるよりは愛することを 私が求めますように
私たちは 与えるから受け 赦すから赦され
自分を捨てて死ぬから 永遠の命をいただくのですから
世界に平和をお与えください 先ず私の心に平和を
あなたは私たち皆の父私たちは皆兄弟 手を取り合って歩ませたまえ

ネルソン・マンデラさんは、まさにこの祈りに生きた人でした。私たちもこの祈りを祈りつつ平和を創りだす地の塩になっていきたいものです。クリスマスの祝福が、皆さまお一人おひとりの上に、豊かに在りますように。

